

7月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ～希望に錨を下ろして～

はじめまして！

シスター・デイン・グエン・ゴック・トゥエン

いつでも喜びと幸せを見つけることができる場所

私は、ロザンナ・デイン・グエン・ゴック・トゥエンです。マリアの御心会（マリアの御心子女会）のシスターです。

私は、信仰深いカトリックの家庭で育ちました。姉妹が3人、兄が1人で、私は3番目です。両親は、教会活動に熱心で、子どもたちの教会活動も支えてくれました。神さまが私たちの家庭をとおして、すばらしく豊かな信仰を育んでくださったことに感謝しています。



子どもの時から、私は教会になじんでいて、その活動に親しんでいました。教会は、私がいつでも喜びと幸せを見つけることができる場所でした。教会で、私は神さまとの関係や、人間関係において成長しました。神の畑で、労働者として奉仕することを学びました。私は、教会からたくさんのかことをいただきました。

私は、1998年にマリアの御心会に入りました。2001年にノビス（修練者）になり、2003年2月9日に初誓願を立てました。私たちの創立者であるピエール・ドゥ・クロリヴィエール神父様（イエズス会・1735〜1820年）は、私たちのミッシェンの方向性として、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」（ヨハネ2:5）を選びました。私は、修道者の養成と神学の勉強を終えてから、さまざまな分野へ送られ、ミッシェンに従事してきました。教会での司牧、霊操による黙想指導、霊的同伴、HIVに感染した孤児の勉強支援とケアなどです。

すべての人々とともに歩くために

歩くために

日本で、私たちの修道会は、65年以上存在しています。1958年女子学生に門戸を開いた上智大学は、女子学生のための寮が必要になりました。当時の管区長ペドロ・アルペ神父様が、私たちの会の本部（パリ）へその運営を依頼しました。私たちは喜んでこのお申し出を受けました。私が住んでいる信濃町共同体は、聖イグナチオ教会小教区に属しています。私たちのシスターたちは、長い間、聖イグナチオ教会とさまざまな仕事で協力してきました。ベトナム人移住者のために、何年もの間働いていた私たちのシスター篠崎翠（2024年7月に帰天）は、数年前、彼女のミッシェンを続けていける人がほしいと思っていました。そこで私は、2024年4月にこのミッシェンを受け、2024年7月25日、日本の東京にきました。2024年12月から、グエン・タン・ニャー神父様にベトナム人のためにカテキズムクラスをするように頼まれました。その後、高祖敏明神父様も、私がアン・ベトセンタールで働くことを受け入れてくださいました。聖イグナチオ教会のコミュニティーと協力できるこの機会に感謝しています。私を歓迎してくださって、本当にありがとうございます。私は、自分の家にいるように感じています。

私は、ここ聖イグナチオ教会で、「この人が何か言いつけたら、そのとおりに」する準備ができています。必要としているすべての人々とともに歩くために、神さまが、私を道具として使ってくださいように。

教会報 MAGIS 7月号

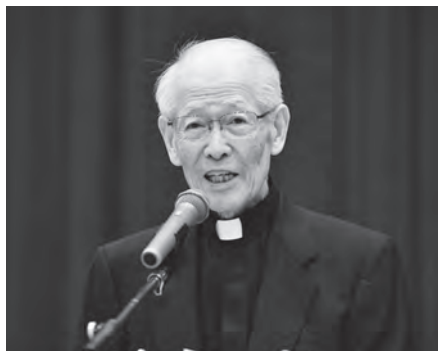
- † 2025 年度 年次活動報告会 P2～3
- † 教会活動連絡会の機能・運営の強化について P4
- † 〔教会活動連絡会便り〕～教会奉仕連絡会～ P5
- † 教会行事報告 P6
- † Family of St. Ignatius ～ベトナム共同体から～ P7

【7月の共同祈願】

7月31日に記念日を迎える
この教会の守護聖人ヨロの聖イグナチオに倣い、
私たちが信仰の火を燃やし続け、
常に識別しながら行動することができますように。
特にローマの「青年の祝祭」に
派遣される若者たちを強めてください。

【ミッション 2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。



私たちは希望の巡礼者として聖年の恵みの中を歩んでいます。時代は確かに大きく動いています。教皇フランシスコから教皇レオ十四世への橋渡しは、それを強く感じさせます。当教会もシノドス(ともに歩むための教会)の示す道を歩み始めて

高祖主任司祭のお話

2025年度 年次活動報告会
100周年に向けて、国籍を越えて「ともに歩む」共同体へ
2025年度 年次活動報告会開催
6月14日(土) 13時より、ヨセフホールにて、2025年度年次活動報告会が対面とZoomの併用で開催されました。最初に高祖敏明主任司祭のお話、助任司祭からの報告があり、2024年度の活動報告、2025年度の活動計画と会計報告が行われました。

います。今年の教会テーマを「さあ出かけよう 心をつないでイエスとともに」希望に锚を下ろして」と定め、聖霊の導きを共同体で識別しながら、当教会のビジョンとパストラル・プラン(司牧計画)づくりに取り組んでいます。
振り返ると、2024年は現聖堂献堂25周年、旧聖堂献堂75周年、前身の麹町聖テレジア教会から88年の記念すべき年でした。10月13日のミサは国籍と言語を越え、肩を組んで祈る教会の将来の姿を予見させてくれました。
ビジョンとパストラル・プランは「ミッション2030」(祈る、伝える、つながる、協働する)を深めながら、麹町教会100周年(2036年)、聖イグナチオ教会

助任司祭の報告

100周年(2049年)の時点での当教会の姿を展望する試みです。それは信仰の深化を軸に、ヒト、モノ(施設や設備)、金(財務状況)、情報とコミュニケーションなどを含む全体計画の策定です。その基本姿勢は国際的な特徴を持つ私たちの教会が、言葉と国籍の違いを越えて心をつなぐこと、共同体が協力し合って、聖霊の導く未来を識別するために世界中、日本中の教会、そして聖イグナチオ教会と「ともに歩む」というものです。
皆さん、私たちの教会が「時のしるし」を見分けながら持続的な発展を望めるよう、お互いに祈り合い助け合って、一緒に努めてまいりましょう。

柴田潔神父

・典礼担当として、ミサの回数多さに合わせてスムーズに実施できるよう気を配っています。ご高齢の神父様方にもがんばっていただけて成り立っています。
・イエズス会の司祭召命のために祈りください。過去

5年入会がなく、養成中の日本人は一人です。イエズス会は入会から司祭叙階まで10年かかります。毎月第一土曜18時のミサは、司祭・修道者の召し出しのためにお捧げしています。
・東ティモールからのアントニオ・ソアレス神学生が、4月より2年間の予定で当教会で中間期を行っています。ミサでの聖体奉仕、英語圏の会報の作成、カレラの会などの手伝いをしています。皆さんからの温かく、実践的な助言をいただけるとうれいです。
・防災について。危険箇所の明示資料ができました。今年度は非常事態発生時の初期行動マニュアルを日本語で仕上げ、各言語に翻訳する予定、帰宅困難者の具体的な対処方法のマニュアル化を目標にしています。
・今年は幼稚園に出かけることになりました。カトリックの教育機関と連携を深めながら、福音宣教の実りを期待したいと思っています。
・6月22日(日)にヨセフホールで日本赤十字社による献血が行われます。ベトナム人の青年の協力が多く、今回は80名を目標としています。



▲(左より) ボニー神父、テー神父、ニャー神父、高祖神父、柴田神父、ソアレス神学生

す。病気の方のためにご協力ください。(P7に報告あり)

ボニー・ジエームス神父

2025年、カトリック教会は新しい教皇を迎えるという大きな恵みをいただきました。新教皇レオ十四世は聖アウグスチノ修道会に属し、聖アウグスティヌスの言葉「キリストにおいて、私たちは一つである」は教皇職のモットーとなっています。これは多様な文化や背景を持つ人々と構成され、ともに歩むことを目指す私たちの教会にとっても適切な言葉です。

毎年5月と10月に開催される「リビンググローザリー」は多言語の信徒、子どもや青年を結びつけ、2カ月毎の英

語圏の国際ミサ、イグナチアン・ユースデー、バザーなども結束を深めるイベントとなっています。教会大掃除もさ

まざまな言語グループで行われました。これらは皆でともに歩むことができることを示す重要な道しるべです。

「私たちはキリストにおいて一つ(教皇のモットー)であり、私たちの希望はキリストに根ざしています」(2025年聖年テーマ)。自分の功績や成果ではなく、キリストにおいて一つに結ばれていることを再認識し、家族として歩み続けられるよう願っています。

グエン・タン・ニャー神父

私たちの国際的な教会は生き生きとしている一方で、いろいろな課題があります。日本人と外国人の信徒だけでなく、日本人同士でも互いに知り協力することはおぼろしいと感じています。多国籍の人々は神の恵みなので、大事にしながら慎重に行動する必要があります。

私の主な仕事はベトナム共同体の世話です。土曜・日曜のミサには約300人が参列します。ほとんどが20

代で、毎年約100組が挙式し、約300人が受洗しますが、若い信者が教会の一員として関わるように同伴することはとても難しいです。国際的な教会がひとつの共同体になるのは長い道のりです。これからは忍耐を持って、少しずつ互いに受け入れることができるように祈りましょう。

2024年度活動報告

前信徒代表

昨年は教会テーマと記念ロゴのもと、献堂25周年をお祝いする一年になりました。公式行事は4月の下五島巡礼から始まりました。6月9日に献堂記念主日ミサと献堂時にうめられたタイムカプセルを公開、10月13日には青空のもと、2300名の皆さんと7つの言語による「現聖堂献堂25周年記念国際ミサ」が行われました。

また、「教会の子どもと若者たちのこれからを考えるシンポジウム」を2回にわたり開催しました。この他にも「パイプオルガン奉献25周年記念オルガンと祈り」「アルペ神父列聖祈願 連続企画」

「教会黙想会」など多くの公式イベントを開くことができました。この一年間を支えたのは「記録」「記念ミサ」「イベント」「若者」「インターナショナル」の5つのチームです。3月30日の「25周年感謝ミサ」を区切りとし、新たなタイムカプセルに未来のメッセージを込めました。引き続き、福音の喜びを分かち合い、信仰を深めてまいりましょう。

2025年度活動計画

信徒代表

私が考えている教会の姿は誰にとっても「おいしい教会」です。食べ物がいちく感じるには、料理そのものも大切ですが、食卓の雰囲気も左右します。同じように、皆が集う教会は温かく、人を大切な存在として受け入れ、笑顔にあふれ、気持ちよく過ごせる場所でありたいものです。

昨年は現聖堂献堂25周年を迎え、野外での国際ミサはこの教会だからこそのできたのだと思っています。この火を消さないよう、いろいろな国の方々と協働していきたい

です。また、活動グループの「連絡会」が充実してきたので、これも深めてまいりましょう。駐車場の使用ルールも定まり、今後はパントリーの使い方を確認したり、聖堂や集会室を借りる際のルールの整備も行なってまいります。クリスマスや復活のミサについても、今までの方法や考えで対応できない部分は、多くの方々の知恵を借りながらすすめてまいります。

2024年度財務報告

財務委員長

教会活動は、皆さまからの教会維持費の納入と献金によって支えられております。光熱費や郵便料金などの値上がりに加え、現聖堂が建設から25年が経過し、さまざまなメンテナンスが必要になり、今年度も支出の増加が見込まれています。一方、収入はようやくコロナ前の水準に戻りましたが、教会維持費は前年から減少しました。

皆さまには支出の削減と教会維持費の納入にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

教会活動連絡会の機能・

運営の強化について

教会活動連絡会議担当評議員

1 はじめに

聖イグナチオ教会は、信徒数1万8千人を超える大きな教会で、その活動・運営の多くは、信徒の皆さまによる「教会活動グループ」(以下「活動グループ」)の奉仕によって支えられています。

また、表題にある「教会活動連絡会」(以下「連絡会」)は、関連性の高い活動グループを集めて連絡会として組織化したもので、ミッション2030小委員会による答申において、教会活動活性化の鍵を握るものとして、その活動・運営の強化が求められています。

2 活動グループと

連絡会の概要

聖イグナチオ教会には、教会活動連絡会議(以下「活動」)に登録されている活動グループが90近くあり、連絡会は、2025年6月現在、「典礼」「行事」「信徒交流」

「広報」「福祉」「教会学校代表者会議」「講座」「インターナショナル」の8つの連絡会(現状、「インターナショナル」は性格が異なりますが、ここでは「連絡会」に整理しています)に、「教会奉仕」(名称正式決定)、「宣教と祈り」の2つの連絡会が加わって10連絡会体制となり、

活連に属する活動グループは、これらの連絡会のいずれかまたは複数に加わり活動を行う方向で動いています。

3 取り組みの背景と

答申の内容

平素から多くの活動グループが熱心に活動しているところ、各活動グループが独自に活動するだけでなく、同種の目的を有するグループと関係する情報を共有し、奉仕の人手を融通するなどし、有機的に連携することで、より効果的な活動を行うことが期待されます。しかし、多くの活動グルー

プがあるため、お互いの活動内容やメンバーが分からないことも多く、また、活連の限られた時間の中で、十分な情報共有や連携を進めたりすることは期待できません。

そこで、関連性の高いグループを連絡会として組織化し、その活動・運営を強化することなどにより、教会全体でより充実した奉仕活動を行っていくというのがこの取り組みの背景です。

このような背景の下、2023年6月9日、宣教会司牧評議会からミッション2030小委員会に対し、「活動グループによる典礼や宣教、奉仕、信徒交流などの実践を促進するための組織(活動連絡会議・各連絡会)のあり方」などを検討事項とする諮問が行われ、2024年4月28日、同委員会はこれに対する答申を行いました。

答申では、①連絡会への参加グループの見直し(すべての活動グループが連絡会に参加することを目指す)②新設連絡会の設置の検討③活動グループ基本シートの見直し(デジタル化と活用)といった大枠に関するも

のを始め④連絡会における運営方法の見直し⑤そこので行うべき議論の見直しといった各連絡会の充実に関するもの、さらには発展的な課題と言ふべき⑥連絡会と活連の関係の見直しや⑦各種実行委員会との連携など、連絡会に関する有益な指摘がされました。

4 取り組みの状況について

答申を踏まえ、活連幹事会及び評議員が中心となり、活連での話し合いなど活動グループの皆さまの協力を得ながら、見直しの取り組みを進めてきました。

その結果、現在、新設の「宣教と祈りの連絡会」、「教会奉仕連絡会」も加えた10連絡会体制が整い、まだ不十分ながらも活動グループ基本シートのデジタル化を行うことができ、また、連絡会単位で主要行事に参加して力を発揮していただく好例も増えてきました。

5 今後について

今後は各連絡会における議論や連携の充実、すなわち、関連する活動グループメンバーの顔の見える関係作

り、必要な情報共有と連携、連絡会として教会奉仕の在り方を考え、積極的に発信・提言・実施すること、連絡会として教会の主要な行事の担い手となっていくことなどを、皆で目指していくと考えると考えています。

また、まだ活動グループに参加していないが、その意欲のある方も大勢いらっしゃると思いますので、そのような方々に加わっていただける方法も検討すべきと考えます。

さて、取り組みの概要は以上ですが、実際のところ、事情はさまざまで、これから活動グループや連絡会としてどのような連携をしていくかを手探りで見つけていくというところもあるかと思っています。

活連担当評議員としても、担当司祭、活連幹事、各活動グループの皆さまとともに、あるべき連絡会の姿を祈りと対話のうちに識別し、皆がキリストの体として一つとなり、より良い働きができるようにしていきたいと思っています。

これからも皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」では、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、1年をかけて対話を重ねてきました。その中で「教会奉仕」と「宣教と祈り」の2つの連絡会が新設されました。今回は「教会奉仕連絡会」の歩みをご紹介します。

教会奉仕連絡会

教会の土台を支える奉仕

連絡会の名称

活動グループはいずれのグループも奉仕の要素を持っています。例えば、典礼奉仕・広報奉仕などと言えるでしょう。

教会奉仕連絡会の所属グループは、主に教会活動の土台の部分を整える奉仕をしていて、「裏方奉仕」と言えるのかもしれませんが、いろいろ検討の上、この名称で承認されました。

裏方Ⅱ例えば手芸部、

洗濯グループの活動

当連絡会の所属グループの一つ、手芸部はクリスマスバザーで頒布する手芸品でおなじみですが、これはバザー献金のための奉仕で

あって、本来の活動は主に次の3つです。

①ミサ中に使用する祭服・祭服着用の付属品・祭壇布・祭壇上のミサの所作に使われるすべての布類の縫製〔司祭からの要請に応じて〕

②①の管理・洗濯・アイロン掛け・それらの各香部屋への配置・聖壇布の取り換え・香部屋の清掃〔毎週〕
③燭台・ベルなどの金属製品の管理・維持（金属磨き・ろう削りなど）〔年に数回・復活祭前など〕

そして洗濯グループは、右記②の作業を、週ごとに手芸部と分担しています。活動日の前日には洗濯物の回収をして準備します。

週日のミサが毎日最少3回、主日ミサに至っては定例だけでも10回、さらに葬儀・結婚・追悼・行事・他団体への会場提供などが加わ

ります。

奉仕の様子はほとんどの方の目には留まりませんが、一枚の布が足りなくてもミサは進行しませんから、ミサが滞りなく行われるよう緊張感を持って準備を行います。（※ミサの用具には、専門的な名称がありますが、分かりやすい表現にしました）

活け花グループ

「活け花による典礼表現」という言い方があるとか。花を通しての典礼奉仕です。一年間を通して典礼や行事にあった花選びや活け方の創意工夫は、予算の制限もある中で大変神経を使っています。日替わりで慶弔の典

礼が続く時もあります。そして、お花を保たせるための水足しや枯れた部分の手入れなどの作業も行います。聖堂で役目を終えたお花を小分けにして飾るお手洗いなどの花活けも好評です。姿勢を低くして神の賛美のために活ける。そんな作業を続けています。

その他の所属グループ

植栽グループ：現在はソフィア通り沿いの花壇と主聖堂

前の丸花壇に、年2回季節の花を植え、日常的に水やりや草取りをして整えています。

クリーンアップグループ

主・ザビエル・マリア・クリスタの各聖堂、信徒会館、各階トイレ、屋外をグループや個人で清掃しています。その他に経年による汚れの洗い落とし作業など。

挙式奉仕部：結婚式で、会場準備や参列者の案内、式中の補助などを行っています。キリスト教を知らない方もたくさん訪れるため、宣教の使命を心に留めて対応しています。

結婚講座グループ：教会での結婚式を希望するカップルのための結婚講座のヘルパーのグループ。ヘルパーは夫婦で行い、指導の司祭方と受講者をフォローしています。

連絡会の可能性

それぞれがしっかりとした活動方針で奉仕を続けているのに、なぜ連絡会としてひとつになるのか？ 最初は皆が疑問に思いましたが、話をする内に悩みは同じと分かってきました。働き手不足

と、お互いが何かしら関連した仕事をしているのに、相互の連絡不足による不便を感じていたのです。

教会の土台を支える活動は、決して途絶えさせることができません。対策として、各所属グループから人手の欲しい時に連絡会に申し出て、手伝える人を捜す仕組みを考えました。即座に手芸部の「金属磨き」の人手を補うことができました。また、クリーンアップグループが実施してきた「教会大掃除」は「教会奉仕連絡会」で担うことを合意し、今年度は当連絡会と評議員で施行しました。

悩みを分かち合い、共通理解を持ち、協働とはどんなことか、共同体の一端を実感し始めています。指導司祭にグエン・タン・ニャー神父様を迎え、今後は外国語のミサに関わる方たちとも交わる機会ができるよう、準備していきたいと考えています。

これらの活動グループの在り方を知っていたとき、「我がグループも同じ！」と思われれば、どうぞ当連絡会にご加入ください！

教会行事

5月下旬から6月中旬に行われた主な教会行事をご紹介します。

●教会大掃除

5月31日(土)、雨天というのに約40名(その内の50名ほどがベトナムを中心に他言語圏から)の参加があり、各清掃箇所はインターナショナルな協働の場になりました。

今年は、パントリーの清掃も行われ、換気扇・壁・調理台・流しなどは、長年の汚れが落とされて、ピカピカに磨き上げられ、食器や調理道具も整理整頓ができました。



▲国境を越えた協働の場 教会大掃除

した。

大勢参加くださったため、予定より早く清掃は終了。テレビアホールで、高祖敏明神父様から教会大掃除は大変意味のある大事な教会行事であるとお話を伺った後、「聖母の訪問の祝日」の恵みをこめ、グエン・タン・ニャー神父様、グエン・ヴァン・テー神父様も一緒に、参加者は3人の神父様から祝福をいただきました。

きれいになるのは教会施設だけではありません。参加者一人ひとりのすがすがしい笑顔には、その人自身が「きれいになった」ことが見て取れます。それは教会大掃除では恒例の、不思議でありがたい光景です。

(教会奉仕連絡会)

●堅信式

6月15日(日)10時ミサの中で堅信式が行われました。99名の受堅者とその代父母、一般会衆も参列しました。

司式のアンドレア・レンボ司教はミサ説教で「本日は三位一体の祝日で、受堅者は聖霊の賜物を受ける堅信の秘跡にあずかります。聖霊

を受けるとは、神ご自身があなたの心のうちに住まわれるということ、これから受ける堅信の秘跡を通じて、三位一体の神との一致に招かれていきます。神の印が心に刻まれ、私たちは神の家族の一員として迎え入れられます。神の愛を受け入れ、満たされ、出発してください。愛を持って生き、開かれた心で人々に仕え、三位一体の神の愛を世界の中で証しする生き証人となってください」と語られました。

堅信式に臨まれた方々から以下の感想をいただきました。

(M・N)

神様の恵みである堅信の秘跡を受けることができ、心からの喜びを感じております。これにより「一人前のクリスチャン」と認められるとのことですが、これから本番であると気を引き締め、新たな気持ちで精進してまいりたいと思います。

入門講座に通り始めて以来、キリスト者として成長できそうです。ようこそ、ご指導くださいました神父様はじめシスター、代母様、教会の皆さまに感謝しております。

(M・Y)

私は昨年4月に入信し、このたび堅信を受け、気持ち新たにしたいところです。

入信前から少しずつ学んでいましたが、神からの呼びかけは残念ながら感じたことはありませんでした。しかし、祈りの重要性が徐々にわかり、堅信準備講座で学んだ短い祈りを時につけ行なっています。すると立て続けにうれしいことが起きて驚いています。これからはコミュニケーション、聖書の理解、祈りを続けることで信仰を深め、聖霊が宿り、神からの呼びかけに応えられるように是非なりたいたいと思っています。

(M・N)

堅信を受けることで自分



▲レンボ司教より塗油を受けて

の信仰について考え、今後どのように歩んでいくべきかを見つめ直す良い機会になりました。一緒に堅信を受けるとともに学び、神に対する理解を深める中で信仰がますます強まったように感じます。

また、教会での仲間とのつながりの大切さを実感し、より信仰を深めていきたいと思いました。堅信の授業を通して学んだことを活かし、日々神様とのつながりを大切にしていきたいです。

(中学生 M・K)

堅信式の後、ヨセフホールにてレンボ司教をお迎えして、立食形式で受堅者のお祝い会が開かれました。



▲左より高祖神父、レンボ司教、柴田神父



Family of St. Ignatius

～ベトナム共同体から～

マリア祭と堅信式

カトリック教会では5月はマリアの月です。例年と同じように今年もベトナム共同体は5月25日の午後3時のミサで、マリア祭を行いました。しかし、いつもと違って、今年のマリア祭には青年だけでなく、当教会のベトナム人向けのカテキズムの子ども達にも参列してもらい、約30人の子どもたちが聖母の御像の前で踊りました。とても、良い雰囲気でした。10月にも行う予定です。

このベトナム人向けのカテキズムクラスは2年前から始まり、現在、日本で生まれたベトナム人の子ども達約50人が第1と第3の日曜日に集まって、信仰について勉強しています。今年の堅信式には日本人信徒のみなさんと共にこの中の7人の中高生が堅信の恵みをいただきました。今回、聖イグナチオ教会の堅信式に初めてベトナム人の子どもたちが参加したということになります。

子どもだけではなく、親たちも堅信式のミサに参加して、教会全体の雰囲気を感じ、とても喜んでいただいていたように感じました。

(グエン・タン・ニャー神父)

●宣教司牧評議会からのお知らせ● (7月3日開催)

- 7月13日(日)10時、子どもとともにささげるミサの中で、新たに侍者となった子どもたちの祝福と、この夏にローマで行われる「青年の祝祭」に当教会から派遣される若者たちの祝福が行われます。7月26日(土)の出発に向けて、引き続きお祈りください。
- 11月22日(土)10時、教会黙想会が開催されます。年間テーマと指導司祭が決まりました。年間テーマは「すべての人とともに 祈りを通して イエスと出会う～ひとつになろう」、指導はグエン・タン・ニャー神父です。世代、性別、言語などのさまざまな違いを越えて祈り合いましょう。

●主聖堂・マリア聖堂天井火災報知器更新工事●

期間：8月18日(月)～30日(土)

期間中は主聖堂天井の梁に足場を設置します。安全確保のため、主日のミサ以外の時間帯は主聖堂を閉鎖し、平日のミサはマリア聖堂で行います。また、主聖堂屋上への資材の搬入・搬出に伴い、クレーン車を主聖堂前庭に設置します。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

●献血の報告●

6月22日(日)に、3回目となる日本赤十字社による献血を、ヨセフホールで行いました。今回は、待ち時間を短くするために、献血ベッド数を4から6に増やしました。ベトナム共同体からの77名を含め、目標の80名を大きく上回る112名に会場いただき、94名(前回72名)から献血いただきました。献血にご協力くださった皆さまに感謝いたします。今後も継続的に実施していく予定です。で、機会がありましたらご参加をお待ちしています。

【訂正】2025年6月号4ページにて下記の通り誤りがありました。
お詫びして訂正いたします。
(誤) 聖マリア御心会
(正) マリアの御心会

●教会施設“修繕・保全報告”●

教会施設の2024年度修繕・保全の主な実施内容と本年度計画についてご報告いたします。

1. 2024年度実施状況

1) 消防設備

- 自動火災報知設備の劣化、不具合のため、各種感知器264個、消火栓17箇所、及び付帯設備を更新。
- *主聖堂、マリア聖堂天井の感知器更新は2025年8月実施予定。

2) 簡易建物診断調査

- 現聖堂建設から25年を迎え、今後の施設維持管理のために建設に携わった各業者による「健康診断」を実施。
- 現状は同年齢の公共施設と比較しても良好とのこと。

3) その他

- 予備費枠で突発修繕と設備更新等実施。
- マリア聖堂外扉修繕 ・ 地階シャワー水栓更新 ・ 1F男子トイレ大便器漏水修繕 ・ 雑排水ポンプチャッキ弁交換 ・ 主聖堂天井設置不使用スピーカー 8台撤去 ・ 401号室エアコン水漏れ修繕

全体予算(税込)に対し、費用実額は(税込)でした。

2. 2025年度実施計画

1) 設備

- 主聖堂、マリア聖堂天井設置火災報知器更新
- 自動火災報知受信機設備更新
- 設備機器中央監視盤更新

2) 建築

- 各所排煙窓修繕
- 主聖堂外壁タイル打診調査

3) 備品

- 掲示板 4 箇所修繕
- 各所建具修繕
- 信徒会館全館放送システム設置

以上を計画し、予算は(税込)を計上しています。

施設委員会

8 月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
3 (日) 年間第18主日	日曜サロシ 11:00~12:30 ヨセフホール
6 (水) 主の変容の祝日	日本カトリック平和旬間 (6 日~15日)
10 (日) 年間第19主日	教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 受付 9:30 ~
15 (金) 聖母被昇天の祭日	平和祈願ミサ 7:00 10:00 12:00 (英語) 18:00 19:30 (ベトナム語)
17 (日) 年間第20主日	日曜サロシ 11:00~12:30 ヨセフホール
20 (水)	クリプタに安置され 8 月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
24 (日) 年間第21主日	日曜サロシ 11:00~12:30 ヨセフホール
31 (日) 年間第22主日	

* マジス 8 月 9 月合併号は 8 月10日(日)発行予定です。

主任司祭：高祖 敏明
 助任司祭：ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭：ジェリー・クスマノ
 ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 神 学 生：アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレス
 シスター：マルセラ・ロサス
 フロール・フロレーセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Viêt Nam)【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第 2 第 4 日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)〒102 - 0083
千代田区麹町 6 - 5 - 1
TEL 03 - 3263 - 4584
FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTube へアクセスできます。